

活動報告・計画

金屋の甘酒「一郎平」

朝ドラ誘致活動の機運醸成を目的に金屋のお米を使った甘酒を地元の酒蔵に依頼し、製造販売しています。今後は、田植えにはじまり、稲刈り、そして日本酒の仕込みまでを体験できる酒造りイベント「南尚物語」の開催も予定しています。



広瀬井路体験授業

市内の小学校を対象に、バスで広瀬井路を巡って学ぶ体験授業を実施しています。また、一郎平の人となりや業績を知ってもらうためマンガ本を市内の全小中学校に寄贈し、地域の社会学習に役立ててもらっています。



市民劇「南一郎平」

一郎平の功績を広く発信するため市民劇の創作(令和4年秋上演予定)に取り組んでいます。令和3年度は演劇ワークショップを開催した後、旗揚げを行いました。現在は公募したキャストとともに稽古を行うなど公演に向け準備を進めています。



酒造りイベント『南尚物語 南一郎平に感謝し 一米作りから酒造り、そして販売まで』

参加人数 50名
参加料 1,000円 (小学生500円)

田植え体験
6月下旬

稲刈り体験
10月下旬

酒造り
仕込み体験
1月下旬

詳細はこちら



世界かんがい施設遺産登録!

南一郎平が完成させた広瀬井路を含む宇佐のかんがい用水群が令和3年11月に大分県で初となる「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

同遺産は、かんがいの歴史・発展を明らかにするとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的に、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたものなど、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰する制度です。

本市では、平田井路及び広瀬井路が先駆的で多彩な農業土木技術を駆使して設置されたものであることから、後世にその価値を受け継ぎ、地域の振興につなげていくため市や土地改良区が中心となって登録を目指してきました。

今後は、国東半島宇佐地域として認定を受けている「世界農業遺産」も含めたヘリテージツーリズムと連携した朝ドラ誘致活動の推進が期待されています。



平田頭首工



広瀬頭首工

令和2年1月に「南一郎平没後100年・広瀬井路通水150年記念式典」を皆様方のご支援、ご協力のもと盛大に開催し、宇佐市民のみならず大分県民にも広く一郎平の偉業、生き方などを知ってもらうことができました。完成まで120年の歳月を要した広瀬井路は、150年を経た今でも当時の姿を残しつつ滔々(とうとう)と流れ、駅館川東岸を潤し続けており、次代に繋いでいくべき貴重な生きた教科書であると言っても過言ではありません。

そこで私たちは、日本三大疎水をはじめ全国の様々な水利事業に携わった一郎平の顕彰活動を通じて、水や井路の大切さを全国に届けていきたいとの想いから、関係機関とともに協議会を設立し、NHK朝ドラ誘致に取り組むことといたしました。課題は山積していますが、朝ドラ実現の暁には、一郎平や広瀬井路のみならず、全国のかんがい施設が注目され、また、その維持管理にあたっている関係者の皆様にとっても大きな誇り、励みになるのではないかと考えています。今後の朝ドラ誘致活動の推進に対しまして、皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。

NHK朝ドラ「南一郎平」誘致推進協議会 会長 岡崎 憲一郎

NHK朝ドラ「南一郎平」誘致推進協議会(構成団体)

宇佐市議会、宇佐市自治会連合会、宇佐商工会議所、宇佐両院商工会、宇佐土地改良区、宇佐市観光協会、大分県建設業協会宇佐支部、宇佐の文化財を守る会、佐田地区まちづくり協議会、両川地区まちづくり協議会、宇佐青年会議所、宇佐商工会議所青年部、豊の国宇佐市塾、宇佐市、南一郎平顕彰会、金屋自治区(順不同)



お問合せ先 宇佐市総合政策課 企画調整係 ☎ 0978-27-8109

宇佐を舞台にした朝ドラ誘致を!!

私も応援しています!



賀来千香子

大地と人々の心を潤すことに

生涯を捧げた男の物語

疎水事業の父

南一郎平

NHK朝ドラ「南一郎平」誘致推進協議会

南一郎平は、1836年に島原藩領金屋村(現宇佐市大字金屋)の庄屋、南宗保の長男として生まれました。一郎平の住んでいた所は、川より20m以上高台にあったため粟や稗などの作物しかできない痩せた台地でした。一郎平は「米を作り地域を豊かにするよ」との父の遺言を受け、莫大な借金もいとわず難工事であった水利事業を再興し、ついに約120年の歳月を要した広瀬井路を完成させました。広瀬井路完成後は、全国を飛び回り、日本三大疎水をはじめとした各地の水利事業に携わるなど人々を豊かにすることに生涯を捧げた一郎平の“波乱万丈”の人生を紙芝居で紹介しします。

一郎平略年譜

| | | |
|-------|-----|-------------------|
| 1836年 | 0歳 | 宇佐市金屋に生まれる |
| 1852年 | 16歳 | 賀来志津(賀来惟熊長女)と結婚 |
| 1856年 | 20歳 | 父死去(広瀬井路の完成が遺言) |
| 1861年 | 25歳 | 広瀬井路の工事再開を決意 |
| 1864年 | 28歳 | 広瀬久兵衛へ資金援助を懇願 |
| 1868年 | 32歳 | 公金の返済ができず入牢 |
| 1870年 | 34歳 | 広瀬井路の通水式が行われる |
| 1874年 | 38歳 | 松方正義に招かれ上京、内務省勤務 |
| 1878年 | 42歳 | 安積疎水(福島)工事で現地指揮 |
| 1919年 | 83歳 | 東京武蔵野で没(63歳で尚と改名) |



1 駅館川の東側は川より20m以上の高台にあるため水利が悪く、米を作ることができませんでした。



2 金屋の庄屋であった一郎平の父「宗保」は日田代官の塩谷大四郎に協力し、広瀬井路の工事に従事しました。



3 1751年に始まった井路工事は総延長が17kmで、手作業で谷を越え、山をうがち進める難工事でした。



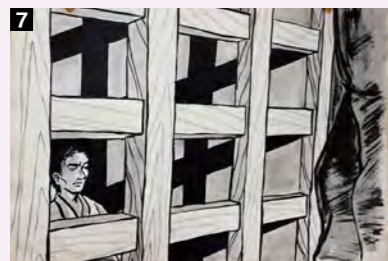
4 3度目の工事中断後に誕生した一郎平は、25歳の時、宗保の遺言であった工事再開を決意しました。



5 工事費は現在のお金に換算して約9億円以上。その多くを日田の豪商・広瀬久兵衛から借用しました。



6 地元の方々はもちろん測量士や石工、貫師など専門家の力を借りて、本格的な工事が進んでいきました。



7 度重なる災害などで資金繰りに窮した一郎平は、借用した公金の返済ができず入牢することとなりました。



8 明治時代に入り、国に援助を要請。日田県知事・松方正義の尽力もあり広瀬井路工事は政府事業となりました。



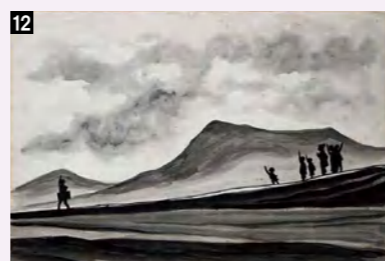
9 広瀬井路の5回目の工事再開後、一郎平をはじめとする関係者の5年にわたる懸命な努力の結果…



10 明治3年、4度の工事中断を経て、約120年の歳月をかけた広瀬井路についに水が貫通しました。



11 通水により駅館川の東側台地にも水田が広がることとなり、人々の生活は豊かになりました。



12 一郎平は、松方正義の招きにより、家族を残して上京し、日本三大疎水など全国の水理事業に携わりました。

この紙芝居は、元小学校教諭の岡本孝子氏が作成したもので、平成6年頃、南一郎平の顕彰活動に取り組んでいた豊の国宇佐市塾を通じて宇佐市に寄贈されました。今回、市の許可を得て、一部編集して掲載させていただきました。

広瀬井路



宇佐市院内町広瀬の取水口から長洲(金屋)方面へ流れる総延長17キロの水路。川より20メートル以上の高台に水を通すため隧道(トンネル)や水路橋(石橋)などの難工事を経て、約120年の歳月をかけて完成。この水路により駅館川東側の痩せた台地が肥沃な水田地域に生まれ変わった。通水から150年が経過した現在でも、ほぼ同じ個所を流れ多くの水田を潤すことで、宇佐の農業を支えている。



取水口
津房川東岸につくられた取水口(宇佐市院内町広瀬)



幹線水路
宇佐市長洲まで総延長17キロ高低差約40メートル



隧道(間風)
足場の悪い藤ヶ谷を迂回するためにつくられたトンネル

(写真出典：大分県農林水産部農村整備計画課 発行 『農業水利偉人伝』南一郎平)

アサカ 安積疎水

猪苗代湖から取水し、福島県郡山市などに飲用やかんがい用水を供給している。明治15年に開通し、それまで水利が悪かった広大な安積原野を一大穀倉地帯に一変させた。一郎平は、調査段階から開発に関わり、工事監督にも従事した。



安積疎水十六橋水門(提供：安積疎水土地改良区)

那須疎水

那須疎水は、保水性が悪く、かんがい用水どころか飲料水にすら事欠いていた栃木県の広大な扇状地に開削された疎水。一郎平は総監督として指揮にあたり、約16キロに及ぶ本幹水路を5ヶ月で完成させ、那須野ヶ原の今日の発展の基礎を築いた。

疎水(疎水)…農業かんがい給水・発電などのため土地を切り開いて作った水路
※本リーフレットにおいては一般的な表記は常用漢字である「疎水」を用い、固有名詞については「疏水」を使用しています。

琵琶湖疎水

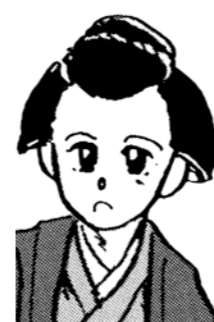
琵琶湖疎水は、明治維新による遷都により衰退していく京都の産業振興を図ろうと計画された疎水で、一郎平は琵琶湖への影響を含めて現地調査を実施し、この結果をまとめた「琵琶湖水利息見書」等をもとに工事が進められた。

一郎平と日本三大疎水



一郎平を支えた4人のキーパーソン

南(賀来) 志津



一郎平の妻である志津は、反射炉を築き民間ではじめて鉄製大砲を造った賀来惟熊(安心院町佐田)の長女。内助の功で、一郎平が心血を注いだ広瀬井路の完成を支えた。一郎平が内務省に招かれた際にも理解を示し、5人の子どもたちと上京する夫を見送った。女優の賀来千香子はその血縁にあたる。

広瀬 久兵衛



日田の豪商であり、完成の保証がない広瀬井路工事に莫大な資金援助を行ってくれた公益実業家。一郎平や父宗保は、広瀬井路の総事業費3万6千両のうち、多くを久兵衛から借用。しかもその一部は失敗しても返さなくていいとの条件で貸し付けに応じている。江戸時代の儒学者、広瀬淡窓の弟で、現広瀬勝貞大分県知事の祖先にあたる。

松方 正義



明治期の元日田県知事で、後に内閣総理大臣を2度務めた政治家。県知事時代に広瀬井路工事の調査を行ったことが由縁で一郎平の高い技術力を知り、内務省に招き入れた。安積疎水の開発を主導した大久保利通亡き後、内務省勸農局長としてその方針を引き継いだ松方は、技術者として関わった一郎平を後に「隠れたる実業界の偉人」と賞賛した。

児島 佐左衛門



広瀬井路の棟梁を務めた石工で、藤ヶ谷水路橋などの建造では、児島組の技術が存分に活かされている。そのため一郎平とは旧知の仲で、息子の基三郎も含めて一緒に安積疎水工事に携わるなど関わりが深い。ちなみに、宇佐から安積に同行した石工の一人に、後年において院内町の鳥居橋等を手掛ける松田新之助がいたと言われている。

(イラスト出典：(株)祥書院 宇佐学マンガシリーズ© 『日本三大疎水の父 南一郎平』
※当マンガ本は令和4年度より宇佐市民図書館電子分館で閲覧可能(無料)です。